

営農組織の概要

- ・所在地:千葉県長生郡
- ・営農グループ名: JA長生施設野菜部会長段トマト部
- ・栽培作物・作付面積:大玉トマト・長段栽培 5.88ha
- ・部会員数:20名(養液栽培17名・土耕栽培3名)

導入技術

- ・環境測定機器 ((株)誠和・(株)トヨタネ・(株)ネポン)
- ・統合環境制御装置 ((株)誠和・(株)トヨタネ)
- ・炭酸ガス施用機 ((株)ネポン)
- ・ヒートポンプ ((株)ネポン)
- ・循環扇 ((株)ネポン)
- ・細霧冷房 ((株)いけうち)



写真1 施設環境の見える化



写真2 生育調査



写真3 若手の勉強会

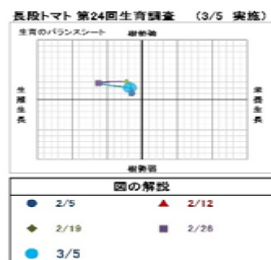


図1 生育状況の変化を把握

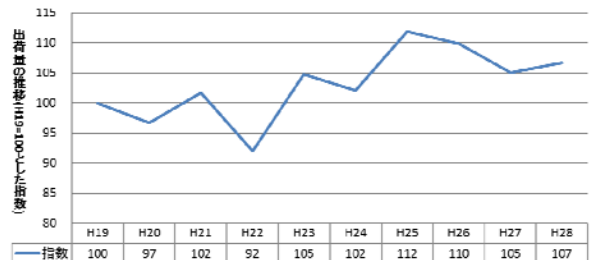


図2 出荷量の推移

導入経緯

- JA長生施設野菜部会(138戸)が生産する「長生トマト」は、平成22年に93万ケース(ピークの約70%)まで減少し、市場評価を維持し安定的に販売する上で、出荷量の確保が課題となっていた。
- 長生農業事務所、JA長生は、平成23年から生産量の30%を占める養液トマト部で、「単収増加」・「規模拡大」に向けた環境制御技術の学習活動や、ICT技術の導入を推進した。
- 平成28年、環境制御技術を習得した生産者により、収穫期間の長い越冬長期どりに取り組む「長段トマト部」が設立された。

取組の特徴・効果

- 長段トマト部の生産者は、週1回、開花花房位置、茎の伸長量、茎径などを測定し、普及指導員が測定結果をバランスシートへ加工後、生産者間で測定結果の情報を共有している。こうして、樹勢の継時的変化を把握し、環境制御や培養液管理に生かしている。
- 越冬長期作型での単収向上 25t/10a ⇒ 34t/10a
- 今後、単収増加に伴い、必要労働力の予測など、雇用管理の効率化に取り組む予定である。

<産地全体への波及>

- JA長生施設野菜部会での環境制御機器導入状況
 - ・環境測定機器導入21戸、炭酸ガス施用機導入17戸
- 「長生トマト」の出荷量の増加
 - ・(平成22年度)93万ケース ⇒ (29年度)103万ケース(110%)
- 部会の若手5人が国庫事業を活用し、農事組合法人 長生フロンティアファーム(1.61ha)の大型施設を建設するなど、平成23年以降、養液栽培面積が4.5ha拡大した。